

## 日本人と中国人の世間観——諺に見られる 言語表現からの検証と考察——

黄 欣

### 0. はじめに

一般に、言語表現の上から、その言語を使用する民族集団の文化的特色を見取ることができる。特に、日常生活から生まれ、民衆の知恵の結晶として使われてきた諺は、各民族それぞれの伝統的な物の見方・考え方を濃厚に反映している。元来、諺は民衆の知恵の総合とも言うべきものであることから、異なった民族の諺でも、形式から内容まで共通性をもっているものもあるが、諺は各民族の民衆によって作り出されたものであり、各民族の歴史、地理環境、生産活動および人々の生活習慣、思考の方式などに差異があるため、各民族の自然観、世間観、人生観などの面にその民族固有の特性、文化の特色が見られ、諺にそれが反映されている。本稿では、日本と中国の諺を分析し、諺に見られる言語表現の上から両国の人々の世間観の特徴を検証し、考察していく。

なお、本稿では主として日本の諺をもとに、それと対応する中国の諺を取り上げて比較するが、中国の諺の中でも漢民族の諺を、また特に、両国でも一般の民衆たちによく知られ、生活の中でよく使われている諺を取り上げる。同時に、日本と中国それぞれの独自の諺も考察の対象とする。

### 1. 諺について

#### 1. 1. 日本の諺の定義

諺の定義については、藤沢 (1960) によれば、日本の諺には広義と狭義の二種類の定義があるとし、「広義とは、どんなことばでも、一定の形をとって、俗間に伝唱されれば、みなことわざである」<sup>1</sup>としている。藤沢によれば、日本語の慣用句、歌謡、なぞは、すべて諺ということになり、「ただ一つの形容詞であっても、それが一定の形をとって、常にある種のことわざを形容するものとして知られていけば、それはすでにことわざである」<sup>2</sup>とまで述べている。